

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 6 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしくお願ひいたします。

記

1 情報の内容 ハスモンヨトウの薬剤感受性の検定結果について

2 調査方法

1) 供試虫

(1) 採集時期：令和 6 年 9 月

(2) 採集場所：四国中央市（サトイモ圃場）、西条市（なす圃場）、計 2 地点

2) 検定方法

(1) 供試薬剤及び濃度

表に示す 11 剤を供試した（各薬液には展着剤クミテン 5,000 倍を加用）。

(2) 処理及び調査方法

供試虫は、採集した卵塊を食植性昆虫用飼料（インセクタ LFS）で飼育した 2 齢虫を用いた。検定は、キャベツ葉を用いた食餌浸漬法により実施した。5cm 四方に切り取ったキャベツ葉を供試薬剤に 30 秒間浸漬し風乾した後、供試虫とともに飼育ケースに入れ、16L8D、25℃にした室内で保管した。判定は 3 日後に、BT 剤及び IGR 剤（IRAC 番号 11A、18）については 3 日後及び 7 日後に行った。

3 検定結果

1) ディアナ SC、アファーム乳剤、フローバック DF、コテツフロアブル、ヨーバルフロアブル、グレーシア乳剤は、2 地点ともに高い感受性であった。

2) ジアミド系のヨーバルフロアブルは 2 地点とも、ベネビア OD は 1 地点で補正死亡率が 100% と高い感受性であったが、プレバソンフロアブル 5（同率が 44.4% と 63.3%）、フェニックス顆粒水和剤（同率 66.7% と 34.5%）は 2 地点ともに感受性が低く、同系統であっても感受性に大きな差が認められた。

3) フローバック DF は処理 3 日後の補正死亡率は 7.1%、4.9% と低かったが、処理 7 日後では同率が 2 地点とも 100% となり、マトリックフロアブルも同様に処理 3 日後では同率は 44.7%、38.7% と低かったが、処理 7 日後では同率が 84.2%、71% に上昇したが、両剤とも遅効的であった。

4 防除上の注意

1) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、同一系統剤の連用を避け、ローテーション散布を心掛ける。

2) 老齢幼虫や蛹には薬剤の効果が不十分なため、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を心掛ける。

3) 薬剤の効果の低下が疑われる場合には、表 1 を参考にして別系統の薬剤を選択する。

4) 散布前にはラベルをよく確認し、登録の有無、収穫前日数、使用回数等の使用基準を遵守する。

表 ハスモンヨトウに対する薬剤の感受性

供試薬剤	IRAC コード	供試倍数	補正死亡率(%)			
			四国中央市		西条市	
			3日後	7日後	3日後	7日後
ディアナSC	5	2500	96.7		92.9	
アフーム乳剤	6	1000	94.6		100	
フローバックDF	11A	1000	7.1	100	4.9	100
コテツフロアブル	13	2000	100		100	
マトリックフロアブル	18	2000	44.7	84.2	38.7	71.0
トルネードエースDF	22A	2000	78.1		84.4	
プレバゾンフロアブル5	28	4000	44.4		63.3	
フェニックス顆粒水和剤	28	2000	66.7		34.5	
ベネビアOD	28	2000	82.4		100	
ヨーバルフロアブル	28	5000	100		100	
グレーシア乳剤	30	2000	100		100	

注)補正死亡率(%)=(水処理区の生存率-処理区の生存率)/水処理区の生存率×100